

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名(うち20組)	(回答者数) 19組
○従業者評価実施期間	2026年 2月 10日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○生活環境の充実 認定こども園内に併設されているため、園の行事に参加したり、事業所を利用したりと、親御様やお子様の意思に合わせて柔軟に対応することができる。	園のイベントや行事への参加だけでなく、給食の提供も行っている。全員が同じ食器を使用し、同じ食事をとっている様子(食べ方・姿勢・食事マナー)を確認することができる。また、アレルギーにも対応することが可能である。	現在は利用数が少ないが、他園のお子様にも事業所を利用できる環境(午後の時間帯)を提供している。車両を使用し、他園へのお迎えとご自宅への送迎も行っている。
2	○活動環境の充実 指導訓練室にはスウィングやトランポリンがあり、屋外には人工芝の園庭や多くの遊具が設置されている。また、教室の隣には個室トイレ(男児用を含む)があるため、個々の特性に合わせて利用することができる。	指導訓練室に加えて個別対応ができる部屋を用意しており、個々の状況に応じた対応ができる。荒天時には園内のホールも活用できるため、天候に左右されず運動プログラムを行うことができる。	他事業所では近隣の公園への外出や屋外活動も行っていることから、今後は地域への外出なども取り入れ、活動の幅を広げていきたい。
3	○活動内容・プログラムの充実 認定こども園内に併設されていることから、園で保有している物品を使用することができる。特に打楽器類が豊富であり、さまざまな音楽活動を行うことができる。	保育士の視点を生かし、毎日異なるプログラムを提供している。児童指導員も準備に時間をかけ、できるだけ個々の能力に合わせた活動内容となるよう工夫している。	一部の保護者から、理学療法士や言語聴覚士などの専門職配置を希望する声が出ている。今後も配置ができるよう検討していきたい。
4	○情報共有の充実 認定こども園内に併設されているため、担任の先生を含めた職員間での情報共有を迅速に行うことができる。教室内の課題についても共通理解を持って取り組むことができている。	認定こども園で行われる終礼に出席し、児童の様子を振り返っている。情報共有を行い、様々な職員の視点からの意見を取り入れることで、共通理解を図っている。	引き続き、お子様の様子を支援後や当日の終礼時に情報を共有していく。また、保護者からの相談や悩みについては、認定こども園の担任も含めて全職員で共有し、助言や支援を行っていく。
5	○相談等がしやすい環境 WEB上の支援システムを保護者と共有しており、気軽に連絡を取り合える関係性を構築している。また、保護者との面談や園との情報連携会議等も適宜実施している。	お子様の様子や気付いたことを、WEB上の支援システムを用いて保護者へ伝えている。メール機能も活用し、随時、保護者からの要望を把握できるよう努めている。	引き続き、WEB上の支援システムを活用し、保護者との関係性の強化を図る。また、定期的に関係機関連携会議(就学者も含む)や担当者会議等を開催していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	認定こども園の活動に合わせて運営しているため、園のイベントや行事等により当日の利用人数が減少し、プログラム内容を変更せざるを得ない場合がある。	当法人の認定こども園に登園しているお子様の利用が約9割を占めているため、園のイベントや行事等の影響を受けやすい状況にある。	園のイベントや行事等に左右されにくいプログラムの工夫/作成を進め、事業所内の活動に限らず、事業所外での活動機会を増やししながら他園の児童の利用者数を増やしていきたい。
2	1日の定員は10名までであるが、利用希望者が10名を超える日もあり、保護者にご理解をいただいたうえでキャンセルをお願いするケースが増えてきている。	現在は人員配置基準を2名で運営しているので、10名までの定員しか利用することができない。	人員配置基準を3名で運営することができれば、10名以上15名以下のご利用が可能となるので、今後検討していきたい。

3	<p>他園に在籍している児童の当事業所の利用が少なく、利用者が園内児童の割合が多い。</p>	<p>近隣地域において対象となるお子様が少ないことから、当事業所では車で20～30分程度の距離（市街地）まで送迎を行っている。</p>	<p>現在は送迎距離および時間を調整し、他園へのお迎えやご自宅への送迎にも対応している。</p>
4	<p>まだ園内の保護者の当事業所に対する理解や認識に差が見られる。</p>	<p>療育や児童発達支援という分野自体の認知度が地域ではまだ十分とは言えず、地域で実施される発達検査の結果をきっかけに興味・関心を持たれる保護者が多い傾向にある。</p>	<p>今後も認定こども園の説明会やイベント・行事等の機会を活用し、療育および児童発達支援の必要性について理解を深めていただけるよう、地域への周知・啓発を行っていく。</p>
5	<p>地域交流の機会が特定の方（主に卒園生）に偏ってしまう傾向がある。</p>	<p>認定こども園内で活動を行っていることから、園児の安全性等を考慮すると、地域の不特定多数の方を一度に受け入れることが難しい状況にある。</p>	<p>今後も、安全管理が可能な範囲において交流会の開催（参加人数・場所・時間等）について検討していく。また、当法人が主催する「こども食堂」の活用や社会福祉法人が主催する地域活動への参加を図っていきたい。</p>